

関西理学療法学会 一日研修会 基調講演  
『姿勢・動作分析の工夫』

関西医療大学大学院 保健医療学研究科 研究科長  
関西理学療法学会 会長  
鈴木俊明

今回のテーマは「姿勢・動作分析の工夫」である。私は、皆さんに姿勢・動作分析をする際に気をつけて欲しいポイントについてお話しさせていただきます。

### 1 患者さんの訴えは良く聞くことが大切である

患者さんは皆さんに様々な問題を訴えます。その訴えは、どんな意味を持っているかを運動学的に解釈するのです。また、実用性の低下とどのように関係するか十分に考えることが必要になります。

### 2 健常者の動作を明確に理解した上で、患者さんの動作の特徴を判断する

患者さんの姿勢・動作の特徴を把握するには、やはり健常者の動作を理解することが非常に重要です。動作観察をする際に皆さんに注意してもらいたいことを2点お伝えします。ひとつ目は、患者さんが問題と言われている場面よりも、その前の時期に問題があることが多い。例えば、患者さんは右立脚初期に安定性の低下を認める場合には、左立脚後期の動作に問題があることが多い。ふたつ目は、我々が動作観察するとき、動作を前額面から観察することは多いですが、その動作には矢状面や水平面の問題が含まれていることを予想することが大切です。

### 3 姿勢・動作分析が上手になりたい方にわかって欲しい

姿勢・動作分析をする時には動作を全体で把握する必要がある。最初から単関節だけの姿勢・動作分析や、セラピストの興味を持つ部分だけの姿勢・動作分析では上手にならない。動作を全体に捉えることが重要であることをわかって欲しい。また、姿勢・動作を現象だけで判断してはいけない。現象を構成する運動を明確にする必要がある。

最後に、姿勢・動作分析が上手くなるには、セラピスト自身の自主トレーニングが大事である。具体的には、患者さんの動画を何度も見る、スローモーションの動画で正しく確認する。この作業を通して、姿勢・動作分析が上手くなることが可能である。